

HAT CROSS

神戸赤十字病院広報誌
2003. 冬号 Vol.1

神戸赤十字病院開院



地域に開かれた明るい赤十字病院に！



院長 小川恭一

平成15年8月1日からHAT神戸（Happy Active Town 神戸・東部新都心）で新病院（鉄筋コンクリート造地下1階地上7階建て、免震構造、延床面積約2万7千平方メートル）が隣接の兵庫県災害医療センターとともに診療を開始いたしました。

爽やかで明るい「神戸の光と風」をイメージした施設ができ、災害の暗いイメージを明るくイメージに変えて、HAT神戸から世界に向かって発信するのにも相応しい拠点が出来たと思います。

ICU、CCU、HCUなど10床を含む310床、産科、精神科以外の19診療科（内科、心療内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、神経内科、小児科、外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科）と病理検査部門を持つ総合病院として、本年度は先ず210床を稼働させました。

災害救急医療情報指令機能を持つ兵庫県災害医療センターの三次救命救急医療を補完する基幹災害拠点病院として、災害医療、救急医療や救援活動に関わることも重要な使命ですが、総合病院として神戸赤十字病院の特色を生かし地域の医療機関と連携した医療を充実させることが大切です。主要な診療機能として、悪性新生物、心臓血管疾患、脳神経疾患、運動器疾患、糖尿

病などに対する高度専門医療を目指しておりますが、限られた病床を有効に利用して働き、入院しやすく、また早く地域の機関や自宅に帰って働きやすくし、地域に開かれた病院とするための機能がこれからの医療に最重要と考え、地域医療連携室の充実を図りました。ソシアルワーカーが中心となり、医師、看護師などとともに、医療のこのみならず医療費などの経済問題、家庭の問題、地域における医療や在宅医療などの相談窓口となり、地域の医療機関と緊密な連携をとってまいります。

医療者や地域の住民の方に対する教育研修も重要な使命です。医療者の研修については、世界中からの医療関係者の受け入れが出来るよう病院の医療内容を充実させて行きたいと思っております。地域住民向けの健康講座を「HAT健康セミナー」と名づけ、第1回の糖尿病についての講座を11月5日に行いましたが好評で、今後継続してテーマを変え開催する予定です。

また、明るいイベントも企画いたしますので、多数の地域住民の方々のご参加を期待しております。

地域と一体となり、安心して受診していただける施設として充実すべく、職員一同日々努力してまいります。皆様には倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



創刊特別寄稿

片岡画伯が兵庫県文化賞を受賞！

—新病院を彩る光と風の画家—

片岡真太郎さんの絵

神戸赤十字病院院長 小川恭一

本年度の兵庫県文化賞を受賞された片岡真太郎画伯から新病院に絵のご寄贈を賜りました。一階の外来ロビーに100号の大作「回想の波止場」が、二階のエスカレーターを上ったところに「それは風の中に」と「緑の風」の2点の作品が掲げられており、それぞれが、光が目飛び込んでくるように、明るく、優しく、引き付けられる絵です。お気づきの皆様が多いことと思われま。私は、開院して間もなくこれらの絵に出合った時、思わずドキッとしました。というのは、病院の建物を作るに当たって何かをイメージしようとして提案し、「神戸の光と風」ということになり、心理学者でもあるインテリア・デザイナーの木村千尋さんにお願ひして、明るくシッカリな病院のインテリアを考えて戴きました。まさにこのイメージにピッタリする絵であったからです。木村さんのデザインによるロビーのガス灯を想わせる照明などともよくマッチしていて面白い雰囲気が出ており、皆様の心を和ませることでしょう。

洋画家 片岡真太郎



神戸赤十字病院が新しく完成しました。これを慶祝します。県民の一人として今回記念の奉仕の機会を与えられ、身に余る光栄であります。至福の風をテーマとする絵画三幅対で構成しました。井戸敏三兵庫県知事をはじめ木村重信県立美術館長の御鞭撻を頂き、加えて、小川恭一院長から多大なる共感を得ましたことは誠に幸せであります。

「全ての芸術はポエジー（詩）で決します」師・牛島憲之先生（昭和58年、文化勲章）が、私の日動画廊個展「風・時の流れの中に」にあたり残された最後のお言葉でありました。孤独であるべき画業の支えと思つて居ります。

作品について

(1)と(2)はともに人と白馬で構成する心象風景です。『片岡真太郎画集・風よ（日動出版刊）』より

(1) 「それは風の中に」 油彩 20号／カンバス
それは白い風の物語
これらの物語は始まったばかり
その愛は純真
その信頼は限りなく続く
無上のフレンドたち

(2) 「緑の風」 油彩 50号／カンバス
ひさしぶりに新緑の風を吸ってきた
今日は香気をおびた風を感じた
花のときの過ぎゆくまゝ
香しい かすかな風のためいき
まぶたにうかぶ一瞬の情景
ともよ そこに面影が

(3) 「回想の波止場」 油彩 100号／カンバス
沖をゆく白帆 大小の船
人々がつどう波止場に 時は流れて
舞台の主役を好きに演出する
風はバックの音楽 皆んなよかったあの日
回想のステージは いっだって美しい

去る8月18日に片岡画伯に病院にお越し戴き、日本赤十字社兵庫県支部長でもある井戸敏三兵庫県知事からの感謝状の贈呈が行われました。その際に画伯からこれらの絵についての「心象」を中心とした面白いお話伺う機会がありました。これらの絵のイメージの由来を是非皆様にも知って戴きたく、HAT CROSSへの原稿依頼を致しましたところ、快く引き受けて戴きました。改めて、皆様と共に心よりお礼を申し上げますとともに、画伯の「心象」を何時までも大切にしていきたいと思ひます。



「回想の波止場」前の片岡画伯

海に来ると開放感に満たされるのはなぜだろう。人生は心の旅であるから歓びや哀しみ、光と影である。そして人間は自然と一体であり一部分であろう。神戸の波止場で送迎の人々とともにして哀歎たどよう風を感じ、対話してきました。人生航路の光と影、それ愛の天使キュピットが奏でる音楽、風につれて彼方から静かに現れる美神—白い船。それらは、つまり人生そのもの。折目に立会う光景を美しいと想ってきた。かつてのヨーロッパ遊学で南仏海岸ニスでも描き、文明の母胎たる地中海の輝く光と風から西洋文化に共感しました。世界はグローバルの時代を迎えている。胸中山水で東西文化のギャップをこえられるか。複数のイメージ・重層構成の心象風景で描く近作であります。

2003. 10 芦屋の画室にて
立軌会同人 元多摩美術大学教授
サロン・ドートンヌ又会員（仏）
日本美術家連盟会員 兵庫県文化賞受賞

災害救助訓練報告

9月27日、たくさんの救急車が走り、病院の前に大きなテントが張られて、沢山のけが人（？）がつぎつぎ運び込まれました。テントの中では宇宙服を着たドクター・ナースが働いていました。これは、実際起こった事故ではなく訓練でした。



今回は約100名の職員が参加して災害救護訓練が行われました。けが人に見えたのはメーキャップをした名うてのボランティアと職員でした。迫真の演技に救護の係りは真剣に取り組んでいました。宇宙服は化学薬品から身を守る装備です。今回の訓練は「近くで化学爆発があり、たくさんのけが人がでた」との想定でした。

神戸赤十字病院は、「赤十字の使命としての災害救護」の役目と共に、兵庫県災害医療センターと協力して災害救護にあたることになっています。実際災害が起こった時には、ただちに派遣できる救護班（1班6名）を5チームもっています。



赤十字の救護班

阪神・淡路大震災では全国の赤十字施設からたくさんの日赤救護班が神戸赤十字病院に集まり、救護活動を行いました。こんどはその恩返しをする番です。災害が起これば全国どこへでもとんで行って救護活動ができるようこうして訓練を重ねているのです。

太平洋プレート沈み込みによる大規模の地震が起こると心配されています。訓練だけで終わるに越したことはありませんが、いざという時のために、準備だけは怠りなくやっています。

糖尿病教室のお知らせ

当院では糖尿病治療の様々なプログラムを用意しています。毎月開講している糖尿病教室もその一つで、内科医師3名、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師、臨床心理士、ソーシャルワーカー等の各専門スタッフが納得いくまでお手伝いさせていただきます。糖尿病教室は知識をただ伝達する学習塾タイプではなく、なぜ知識を実行に移せないのか、どう工夫すればうまくいくのか、スタッフ全員と一緒に悩み議論し解決していく相談所タイプを目指しています。現在のところ当院ご通院中の患者様とご家族の方のみを対象にした予約制で、毎月8日間あります。ただし日程は毎月変わりますので事前にお問い合わせ下さい。糖尿病教室で勉強して是非あなたも主治医になりましょう！

盛況！HAT健康セミナー



HAT神戸を中心とした地域住民の皆様の健康増進をめざして、11月5日に、第1回目のHAT健康セミナーが開催されました。今回は、生活習慣病の「糖尿病」を取り上げ、糖尿病という病気について、食事の注意点についての講演の後、当院の糖尿病治療チームのメンバーによる質疑応答が行われました。

約50名の方のご参加をいただき、活発な質疑応答もあり、予定の時間を少し超過しましたが、参加していただいた皆様の糖尿病予防についての理解が多少なりとも深まったのであれば幸いです。HAT健康セミナーは、「生活習慣病の予防について」というテーマで、今後、定期的に開催を予定しておりますので、多くの方々のご参加をお待ちしております。



質疑応答も活発に

第1回院内勉強会

去る9月25日「術後血栓症」をテーマに院内勉強会を実施しました。診断・治療・看護のそれぞれの立場からの発表形式で、多数の職員が参加しました。今後も学術・図書委員会の企画のもと、月1回のペースで実施し、研鑽を積んでいきたいと思ひます。



熱心に聴講する職員

病院裏手から西方向にみたHATのマンション群（右）と神戸の港

病院北側から六甲山系を望む。茶色い屋根の建物はなぎさ小学校



基本方針

1. 患者さまを中心として、人権と意思を尊重し、安心と満足が得られる医療を提供いたします。
2. 地域医療機関との連携を保ち、患者さまに一貫した医療を提供いたします。
3. 救急医療、災害救護活動、国際救援活動を行います。
4. 内外の医療従事者の育成に努めます。
5. わたしたちは、日々研修・研鑽に、明るく活力のある職場づくりに努めます。

患者の権利に関する宣言

神戸赤十字病院は、医療の中心は患者さまであり、医療行為が患者さまと医療関係者との信頼関係の上に成り立つものであることを深く認識し、ここに、「患者の権利に関する宣言」を制定いたします。

当院の全職員は、この、「患者の権利に関する宣言」を守り、患者さまの医療に対する主体的な参加を支援して参ります。

1. 個人の尊重

個人として、その人格・価値観などが尊重されます。

2. 最善の医療を平等に受ける権利

最善の医療を平等に受ける権利があります。

3. 知る権利

自分が受けている医療について知る権利があります。

4. インフォームド・コンセント

自分が受ける検査や治療の内容や危険性、他の方法の有無などについて、十分に理解できるまで説明を受ける権利があります。

5. 自己決定権

十分な説明と情報提供をうけたうえで、自己の自由な意思に基づいて、治療方法を選択したり医療行為を拒否する権利があります。

6. プライバシーの権利

自分の情報を承認なしに第三者に開示させない権利があります。

ご存知
ですか？

当院をご利用の際、「紹介状」をお持ち頂くと、初診時にかかる特定療養費（一、〇五〇円）が免除されます。

当院では、診療所との連携による
診療体制を推進しています。

当院では地域の診療所と連携し、それぞれの機能に応じた役割分担を行っています。

普段の健康管理は診療所が担当し、専門的な検査や入院治療は当院が行うことで、患者さまへ適切な医療をスムーズにお届けたいと考えております。

そこで、患者様には是非、「かかりつけ医」をお持ちいただき、当院へのお越しの際は、できるだけ「紹介状」をお持ちいただくことをお勧めします。

診察予約がお電話でとれます！

当院を初めて受診される患者さま、及び再診の患者さまの診察予約、並びに変更・取消しをお電話でお伺いします。

予約センター
: 241-9273

お知らせ

神戸赤十字病院周辺MAPが
できました

「病院の場所、行き方がわかりにくい？」との患者さまの声により、病院周辺MAPを作成しました。100系統・101系統のバス及び阪急・阪神電車の時刻表も見やすいよう大きな文字にして掲載しています。再来機横に配置してありますので、どうぞお持ち帰りください。

ホームページを
リニューアルしました

当院の機能、診療科、医師紹介、各部署の紹介、バス・電車の時刻表の掲載等について内容を充実しました。ぜひ、ご覧いただき、お気づきの点がありましたらご意見を頂ければ幸いです。

お見舞いメール
はじめました。

当院では入院中の患者様への「お見舞いメール」をホームページ上から受け付けております。ホームページに記載しております免責事項をお読みになって同意の上送ってください。あなたの心のこもったメッセージを、綺麗なカードに印刷して患者様へお届けいたします。



<http://www.kobe.jrc.or.jp/>

<編集部より>

神戸赤十字病院広報誌『HAT CROSS』が創刊いたしました！

HAT 神戸と RED CROSS、このふたつを“クロス・(CROSS) 交差させ”、人と人、街と病院をつないでいく「かけはし」となるような広報誌づくりを目指しています。神戸の街も私どもの病院も共に震災からの再出発ですが、皆様と共に新たな一歩をふみ出していきたい、そんな想いをこめてここ HAT の地から情報発信していきたいと思っております。今回は創刊号を記念し、当院のアートシーンを彩ってくださった画家の片岡真太郎氏より特別にご寄稿賜りました。どうぞ皆様お気軽にお立ち寄りくださり、実際の作品をご覧いただければと思います。今後ともどうぞ『HAT CROSS』をよろしくお願いたします。